

令和7年度生涯学習指導者研修 「公民館等担当者コース」

第1回

日時：令和7年6月20日(金) 13:30~16:30

場所：県立図書館 学び⇔交流エリア 集合・オンライン開催

内容：講義「生涯学習・社会教育の魅力と可能性、求められる役割」

講師 玉川大学教育学部教育学科
教授 中村 香 氏

生涯学習・社会教育の魅力と可能性、求められる役割をテーマに、自分の棚卸を行い、本当の思いや経験を生かし、担当者として主体性をもって取り組むことの重要性について講義をいただいた。

〈 参加者の感想 〉

- 他市の方との情報交換はとても有意義だった。他の職場や地域の情報交換で異なる視点や経験を共有することができた。また、地域の課題やニーズについてもより深く認識することができた。他市の取り組みや事例を知ることで自身の業務遂行するうえでのヒントを得ることができた。
- 社会教育の重要性について、なかなか一般に理解されない部分があると日々感じているなかで、このような研修を受講させていただき、この業務の重要性を再認識し、今後の自分のやるべきことを再確認できたと感じた。
- 自身の所属組織以外の活動、立場からの話を聞くことで、自分の活動の幅を広げられる可能性を見いだせた。
- 協議では、他市の講座や催しについて聞いて、また自分の担当事業について意見をいただけて有意義な時間だった。

第2回

日時：令和7年7月10日(木) 13:25~16:30

場所：県立総合教育センター 304A

内容：講話「行動変容を実現する広報」

講師 東海大学文化社会学部広報メディア学科
客員教授 河井 孝仁 氏

「行動変容を実現する広報」をテーマにメディア戦略モデルを用いる利点について、事例を示しながら講義いただいた。講義後は、イベントを広く認知させるために誘発ポイントをどのように設定するか等について考えるワークを取り入れ、広報のポイントを教えていただいた。

〈 参加者の感想 〉

- 意味のある、効果的な、集客につながる情報発信の方法についてとても参考になった。ターゲットの重要性も知ることができた。
- 広報周知のプロセスからターゲットペルソナ設定までとても細かくお示しいただき、またグループ協議の際もお声掛けいただき有益だった。他市町のご意見も役に立った。
- 今まで30代40代などターゲットを絞っていたが、30代で何が好きな人なのか…などもっと細かく絞る必要があるのだと知ることができた。
- ターゲットを絞ることの大切さが身に沁みた。学んだことを生かしたい。
- 行動を促す視点が学ぶことができたのがよかった。
- 他の市でやっている講座、イベントの悩みをみんなで考えることで、自分に当てはまる問題も考えることができたので、すごく有意義な研修だった。



第3回

日時：令和7年9月19日(金) 13:30~16:30

場所：県立総合教育センター 304A

内容：講話「社会教育施設における、地域をつなぐ豊かな活動の作り方
～防災活動などを事例に～」

講師 特定非営利活動法人プラス・アーツ
理事長 永田 宏和 氏

「社会教育施設における、地域をつなぐ豊かな活動の作り方～防災活動などを事例に～」をテーマに社会教育、公民館等職員の抱える課題について、多くの事例を示しながら講義いただいた。講義後の情報交換の際にも、各グループを周り参加者の質問に答えていただき、有益な情報を提供していただいた。

〈 参加者の感想 〉

- とても素晴らしい講師のお話を伺うことができた。おそらく、どこの地域でも実施可能な取組のヒントを教えていただき、とても納得した。楽しんでやることも大事ななと思った。
- 事業の企画から多くの人をまきこんで取り組み、イベント後まで生きること、地域の人をつなげる素敵な取組の事例をたくさん知ることができた。
- お話をきいていてワクワクした。参加者にもそんな気持ちを持ってもらえるような企画を作ることが大事なのだと感じた。
- 自分の考えを図式化していただいた気分になり、デザイン的思考を味わえた。
- 事例紹介が豊富かつ企画の地盤となる考え方について非常にわかりやすく解説がされており、とても勉強になった。もっとお話をしてみたい。ぜひ私の公民館でも取り入れてみたいと思うことばかりだった。
- 公民館の事業担当をしています。自身の活動範囲が狭いことがあらためて理解できた。
- 地域をつなぐ具体的活動、手法の紹介をいただき、たいへん感動した。参考にしたいと思う。

第4回

日時：令和7年10月15日(水) 13:30~16:30

場所：県立青少年センター 3階 研修室I

内容：(1)事例発表「優良公民館の事例」

- ①相模原市立大沢公民館
- ②平塚市立富士見公民館
- ③平塚市立吉沢公民館

(2)講義「青少年が支える地域活動」

講師 タクトピア株式会社

代表 長井 悠 氏

「青少年が支える地域活動」をテーマとした講義では、中高生が探求学習として取り組んでいる校内外でのプログラムの事例を多く紹介いただいた。後半は、地域資源と活動を組み合わせたプログラムを考えるワークショップを行った。

〈 参加者の感想 〉

- 単発プログラムとして実施するだけでなく、連続した学びを意識して実施されている点などの事例にも素晴らしいと思った。
- 私の担当地域は資源に乏しいエリアなのだが、改めて資源発掘に力を入れたいと思った。
- どんな方に興味を持ってもらえるかなどを地域の特色を生かして考えるきっかけになった。
- 若い人を対象とした場合の実行委員への参加を躊躇してしまうところに対して、同じ課題にぶつかっていると感じたが、改善案をしっかりと考えられるワークなどを考えたい。
- 探求の時間は以前から興味があり、高校生に公民館にきてもらい、発表してもらい、地域の方に聞いてもらった。そこから一緒に何かできればよかったのだが、それで終わってしまい、そこが悔やまれる。でも考え方としては間違えていなかったと、改めて感じた。今日のワークショップの発想方法が今後も役立ちそうだと思った。
- OVUCAの時代において、若い人々は自身の価値観をよく考え、社会にどう貢献できるか、探求学習を通して学ぶことが重要であることがよく分かった。

